

厚生労働省発表
平成17年3月24日

職業能力開発局能力評価課
能力評価課長 井上 真
課長補佐 山本 浩司
電話 03(5253)1111(内線5936)
夜間直通 03(3502)6958

ファインセラミックス製品製造業、アパレル業の 能力評価基準が完成

(ポイント)

- 現在、厚生労働省では職業能力が適正に評価される社会基盤づくりを進めており、労働者の能力を客観的に評価する仕組みとして、能力評価基準の策定に取り組んでいる。これまで、経理・人事等の事務系職務や、電気機械器具製造業、ホテル業等の能力評価基準が策定されたところである。
- 「ファインセラミックス製品製造業」、「アパレル業」の能力評価基準は、それぞれ業界団体等との連携のもと、企業実務家や学識者からなる職業能力評価制度整備委員会において策定作業が進められ、今般報告書が取りまとめられた。
同報告書においては、業界の職業能力や人材育成に関する状況が分析され、その結果を踏まえて能力評価基準が定められた。
- 能力評価基準は業界内のニーズが高い職種について策定され、職務遂行に必要な職業能力や知識に関し、担当者に必要とされる能力水準から組織・部門の責任者に必要とされる能力水準まで4つのレベルを設定している。
また、能力評価基準は、単に知識があるということにとどまらず、職務を確実に遂行できるか否かの判断基準となるよう、典型的なビジネスシーンにおける行動例を記述している。
- また、現在、自動車製造業、ロジスティクス業(運送・倉庫)等幅広い業種において能力評価基準の策定を進めているところである。
- なお、上記の報告書及び能力評価基準は、中央職業能力開発協会のホームページから入手可能である。

[中央職業能力開発協会 <http://www.hyouka.javada.or.jp>]

1 能力評価基準の策定までの経緯

(1) ファインセラミックス製品製造業

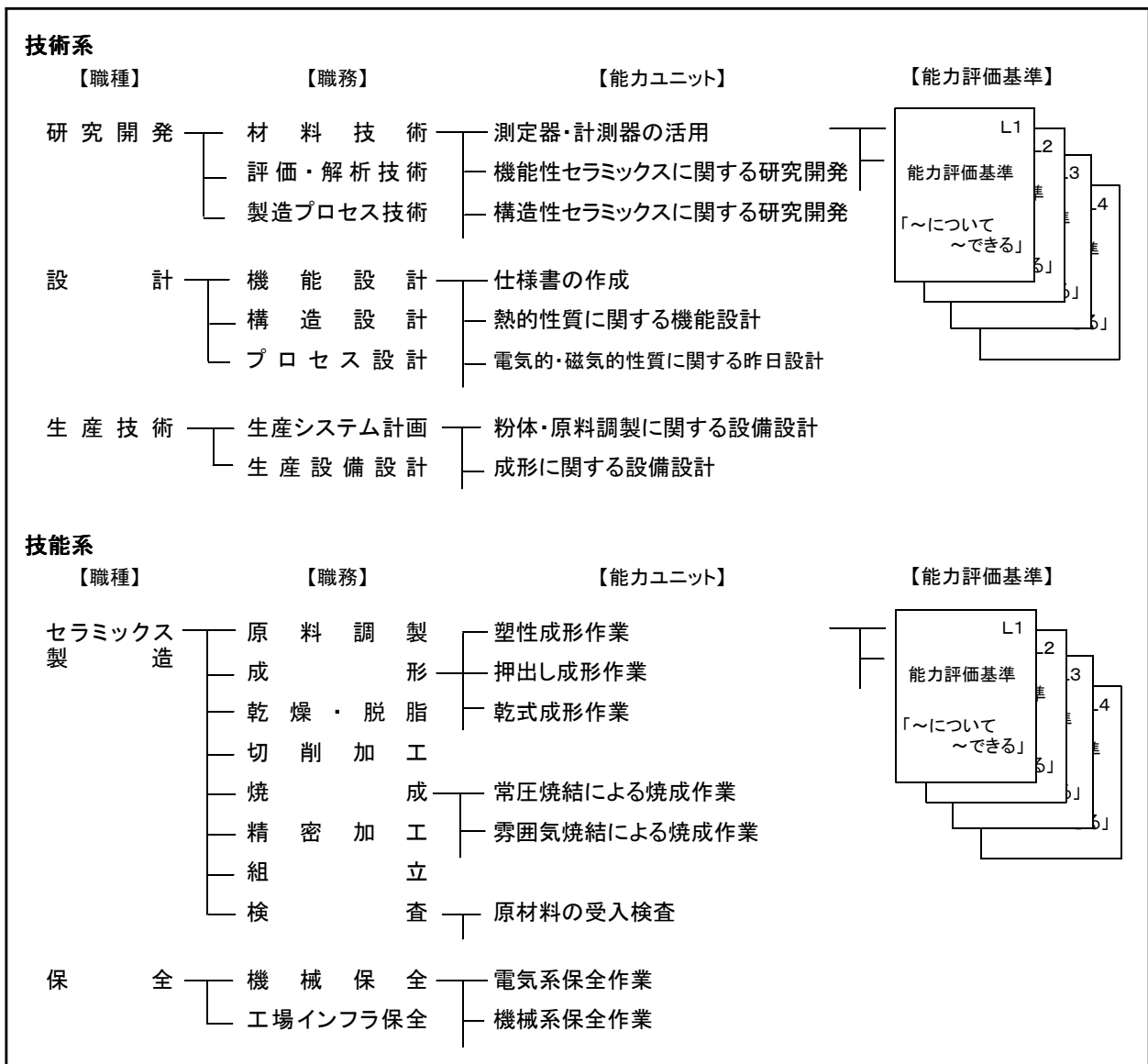
① セラミックス製品製造業については、(社)日本ファインセラミックス協会（会長・金川 重信）との連携のもと、職業能力評価制度整備委員会（座長・米屋 勝利 横浜国立大学 名誉教授 特任教授）を設置し、検討を行った。

② 同委員会は、ファインセラミックス製品製造業に特徴的であり、能力評価基準の策定ニーズの高い職種として、ファインセラミックス材料の開発・製造に係る業務に絞り、技術系と技能系で5つの職種を選定し、能力評価基準の策定を行った（図1参照）。

具体的には、技術系として新技術・新材料の研究開発及び応用分野の開拓を行う「研究開発」、製品化に向けた具体的な設計を行う「設計」、生産ライン及び製造設備を企画・開発・設計する「生産技術」、技能系として、原料調製、成形、焼成、加工等を行い製品として仕上げる「セラミックス製造」、生産設備の点検等により故障を排除し、設備を正常・良好な状態に保つ「保全」について能力評価基準の策定を行った。

③ ファインセラミックス製造業では、内外との競争激化に伴い、新技術を開発し、これを迅速に製品化していくことが従来にも増して重要になっており、こうした現状を踏まえて能力評価基準が策定され、同委員会の報告書が取りまとめられた。

図1. ファインセラミックス製品製造業の能力評価基準の全体構成



(2) アパレル業

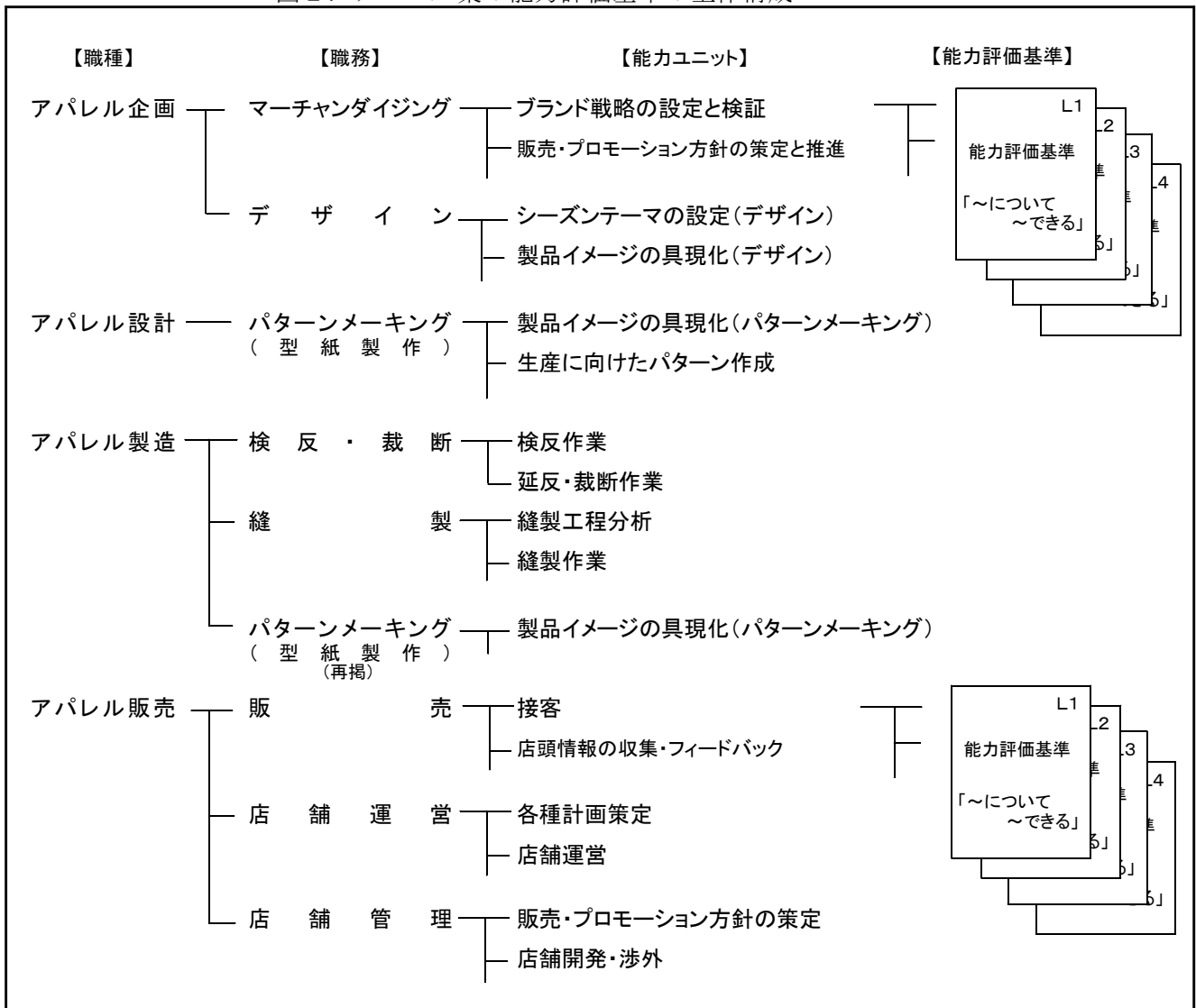
① アパレル業については、(社)日本アパレル産業協会(理事長・中瀬 雅通)及び日本アパレルソーイング工業組合連合会(会長・大栗 實)との連携のもと、職業能力評価制度整備委員会(座長・岡本 義行 法政大学大学院 イノベーション・マネジメント研究科教授)を設置し、検討を行った。

② 同委員会は、アパレル業の基本は「考えて」「作って」「売る」であり、能力評価基準の策定ニーズの高い職種として、対象製品を「婦人服の布帛」に絞り、4つの職種を選定し、能力評価基準の策定を行った(図2参照)。

具体的には、事業戦略を踏まえ具体的な商品イメージを作り上げる「アパレル企画」、デザイン画を基に商品化するためのパターン(型紙)を作成する「アパレル設計」、作成されたパターンを実際に製造・量産する「アパレル製造」、商品を店頭で販売し、あわせて顧客のニーズを把握し企画にフィードバックする「アパレル販売」について能力評価基準の策定を行った。

③ アパレル業では、ブランドの企画意図を製品に具体化するパターンメーカーの役割が重要であるとの認識から、企画・デザインの意図は素材の特性を理解し、縫製にも習熟したものづくりの高度な技術職としてのパターンメーカーの育成に取り組む動きも見られ、こうした現状を踏まえつつ今後の方向性も示した能力評価基準が策定され、同委員会の報告書が取りまとめられた。

図2. アパレル業の能力評価基準の全体構成



2 レベルの設定

能力評価基準の策定に当たっては、これが職業能力を評価する基準であると同時に、労働者にとってキャリア形成上の指針となるように、役職等とそれに必要とされる職業能力の関係の実態に照らし、担当者が必要とされる能力水準（レベル1）から組織・部門の責任者に必要とされる能力水準（レベル4）まで4つのレベルを設定した（図2参照）。

図2. レベル区分の目安

| | |
|------|--|
| レベル4 | ○ 広範かつ統合的な判断及び意思決定を行い、企業利益を先導・創造し遂行するために必要な能力水準。 |
| レベル3 | ○ 方針を踏まえて管理運営・計画作成等を行い、企業利益を創出し遂行するために必要な能力水準。 |
| レベル2 | ○ グループやチームの中心メンバーとして、創意工夫を凝らして自主的な判断、改善、提案を行い遂行するために必要な能力水準。 |
| レベル1 | ○ 担当者として、上司の指示・助言を踏まえて定例的業務を確実に遂行するために必要な能力水準。 |

3 能力評価の基準の記述内容

能力評価基準の具体的な記述に当たっては、単に知識があるということにとどまらず、当該職務を確実に遂行できるか否かの判断基準となるように典型的なビジネスシーンにおける行動例を記述している（図3、4、5参照）。

4 能力評価基準を活用するメリット

能力評価基準が明らかになることによって、的確なキャリア形成を図ることができる環境が整備され、また、職業能力に関するミスマッチが縮小することが期待される。

- (1) 求職者・労働者にとっては、職業選択やキャリア形成の目標を立てる際に、①自らの能力の客観的な把握、②企業が必要とする能力の把握が可能となり、職業能力の向上に向けた取組みにつなげることができる。
- (2) 企業にとっては、人材に関する企業戦略を立てる際に、採用すべき人材の明確化、人材育成への効果的な投資、能力に基づいた人事評価・処遇等の導入・定着に関する新しいスタンダードとして活用できる。
- (3) ハローワーク等の労働力需給調整機関にとっては、労働者、企業の双方が職業能力を明確に示すことにより、雇用のミスマッチ解消につなげることができる。
- (4) 教育訓練実施機関にとっては、職業訓練の対象者の能力レベル表示や修了時の能力評価を適切に行うことができる。

5 今後の事業の取組み

現在、自動車製造業、外食産業等について、能力評価基準の策定作業を進めているところである。今後も引き続き、幅広い分野について能力評価基準の整備を行うこととしている（図6参照）。

なお、現在、ハローワーク等で活用できる能力評価ツールの開発を進めている。

6 「職業能力評価制度整備委員会活動報告書」及び「能力評価基準」の入手先

○中央職業能力開発協会 能力評価部

〒112-8503 東京都文京区小石川1-4-1 住友不動産後楽園ビル

<http://www.hyouka.javada.or.jp> (こちらよりダウンロードできます)

E-mail hyouka@javada.or.jp TEL 03-5800-3689

(図3) ファインセラミックス製品製造業の能力評価基準の例

| | | |
|--------------|---------|---------------------|
| 選択 能力ユニット | 能力ユニット名 | 常圧焼結による焼成作業(レベル1) |
| | 概要 | 常圧焼結により焼成作業を適切に行う能力 |

| 能力細目 | 職務遂行のための基準 |
|-----------------|--|
| ①常圧焼成作業の理解と段取り | <ul style="list-style-type: none"> ○ 常圧焼成作業に際し、段取りの選定を適切に行っている。 ○ 焼成炉内の温度及び雰囲気との測定を適切に行っている。 ○ 焼結条件を設定し、作業手順に従って焼成作業を適切に行っている。 ○ 焼成炉、焼成設備の各部の名称と機能、作業手順を正確に理解している。 ○ 焼結体の研磨加工、表面処理、接合について、その特徴、加工方法、加工用具、加工条件の選定等、内容と手順に関する概略を把握している。 |
| ②常圧焼成作業の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 焼成炉及び燃焼設備、雰囲気発生装置など附属設備の適切な操作により、焼成作業及び調整を適切に行っている。 ○ 焼成設備稼働中の点検事項の定期点検を適切に行っている。 ○ 成形体の原料、成形方法、形状を考慮した焼成作業を適切に行っている。 ○ 焼成作業現場の5Sやロス・ムダの発見等により、焼成作業の効率化と正味時間の短縮化に向けた取組みを行っている。 |
| ③作業の評価と機械・治具の調整 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 焼成炉及び燃焼設備、雰囲気発生装置など附属設備に関する適切な保守を行っている。 ○ 焼結体の外観、寸法、硬さ、強度、構造等から焼結条件の調整を適切に行っている。 ○ 焼結による焼結体の欠陥の判定及びその防止対策を実施している。 ○ 焼結体の外観、寸法、硬さ、強度、構造等の測定を適切に実施している。 ○ 設備の点検、機器各部の点検、工具の手入れやメンテナンスを定期的に行っている。 |

●必要な知識

| | |
|--|--|
| 1. 設備一般の知識 ・焼成設備の燃焼・機械・電気制御系統 ・附属機器及び装置の機械要素及び機能 2. 電気一般の知識 ・電気用語、電気機械器具の使用方法 3. 品質管理の知識 ・品質管理用語 ・社内の品質管理基準 ・焼結不良の原因及び防止対策(変形、割れ、反り、寸法不良等) ・焼結体の歩留りの計算方法 4. 安全衛生の知識 ・安全衛生全般 | 5. 常圧焼結の特色 ・圧力範囲と焼結法の特徴 ・雰囲気ガスの特性 ・反応焼結法 6. 焼成炉及び炉内雰囲気発生装置 ・種類、構造、熱源、機能及び用途(燃焼式焼成炉、電気加熱焼成炉、バーナー等) ・焼結条件の設定及び成形品の品質(温度、炉圧、雰囲気組成、濃度、加熱・冷却方法、焼結による収縮率等) ・焼成設備機器の保守管理 7. 成形工程の知識 ・原料調製、成形の種類、材料特性等 8. 焼結体仕上げ加工の知識 ・焼結体の測定 ・研磨、表面処理、接合等 |
|--|--|

(図4) アパレル業 (アパレル設計) の能力評価基準の例

| | | |
|--------------|---------|--|
| 選択 能力ユニット | 能力ユニット名 | 生産に向けたパターン作成(レベル1) |
| | 概要 | サンプルチェックを経て量産が決定されたパターンについて、最終的な補正を行い、縫い代を付けて工業生産向けのパターンとして完成させ、縫製仕様書を作成して生産現場への投入を行う能力。 |

| 能力細目 | 職務遂行のための基準 |
|-----------------------------|---|
| ①マスターパターンの確定(補正) | ○ サンプルチェックを経て展示会で注文を受け、量産が決定されたパターンについて、実際にサンプルをモデルに着用してもらった際の他部門からの意見やモデルの着心地の意見も参考に、他のパターンメーカーやデザイナーの指導を受けて、補正すべき部分を確実に補正している。 ○ 確定したパターンに対して、他のパターンメーカーやデザイナーの指導を受けつつ縫い代を付けて工業生産向けのパターンとして完成させている。 ○ 生地ロット毎の伸縮テストデータをもとに、それぞれについてパターン作成の必要があるかを判断し、上司やチーフの指示を仰いでいる。 ○ 表地パターンに合わせて、上司やチーフの指示の指導を受けつつ裏地の生地特性や着心地に配慮した裏地パターンを作成している。 |
| ②マスターパターンに基づくグレーディング及びマーキング | ○ グレーディングに必要な人体工学的な知識及びグレーディングピッチに関する基礎知識をもち、デザインに応じてピッチ配分を決めたうえで、基本サイズ(9号)を基にして、そのグレーディングの原点からパターンの角の位置を合わせて写しながら、7, 11, 13号へと基本的なサイズ展開を行っている。 ○ マーキング用コンピュータを用いてマーキングを行い、基本的な布目等に配慮したパターンの配置を行っている。 |
| ③量産縫製仕様書確定 | ○ サンプル縫製仕様書を基に、見頃、えり、そで、スカートなど単一またはいくつかの担当アイテムについて、量産のための最終的な縫製仕様書をモレのないよう作成し、さらに注意すべき事項を書き込み、スムーズに量産に移れるよう配慮している。 ○ 生産現場からの問い合わせには、迅速・丁寧・具体的に説明を行い、必要に応じて、上長の判断を仰いでいる。 |
| ④最終確認 | ○ 生産現場からあがってくる見本の担当アイテムについて、仕様書通りに縫製されているかを確認し、指摘事項があれば、写真やメモを沿えて具体的な修正指示を生産現場に対して行っている。 ○ 修正指示を出した見本チェックの際には、指摘した事項が修正されているかを確認している。 |

●必要な知識

| | |
|--|---|
| 1. 婦人子供服の種類に関する知識 2. 着装に関する知識 3. 繊維の種類、特徴及び用途に関する知識 4. 織物の種類、組織、用途及び加工方法に関する知識 5. 編地及び不織布の種類及び用途 6. 縫糸の種類及び用途に関する知識 7. 附属材料の種類及び用途に関する知識 8. 色彩の用語、流行に関する知識 9. 安全衛生に関する知識 10. 婦人子供服商品アイテムの特徴に関する知識 11. 製造工程に関する知識 12. 人体の構造、体形に関する知識 13. デザイン技法に関する知識 14. パターンメイキングに関する知識 ・スローパーの製作(ドレーピング、ドライティング) ・デザインパターンの製作 ・工業用パターンの製作 ・グレーディング 15. 作業指示書に関する知識 16. マーキング方法に関する知識(配置、地の目、柄、所要量の見積) | 17. 縫製の方法に関する知識 18. 製品検査に関する知識 19. アパレル用コンピュータの種類、用途及び使用方法に関する知識(パターンメイキング、グレーディング、マーキング、カッティング、グラフィック、パターンシーマー) 20. 製造に使用する機械及び器具の種類及び使用方法(延反機、裁ちほうちよう、丸刃式裁断機、縦刃式裁断機、バンドナイフ式裁断機、ダイカット、自動裁断機、その他の器具、工業用ミシン、アイロン、バキューム台、製図用具) 21. 婦人子供既製服に関する日本工業規格に関する知識 22. 家庭用品品質表示法に関する知識 |
|--|---|

(図5) アパレル業（アパレル製造）の能力評価基準の例

| | | |
|--------------|---------|--|
| 選択 能力ユニット | 能力ユニット名 | 縫製作業(レベル2) |
| | 概要 | 縫製仕様書に従って、作業能率を高めることを意識しながら、素材の特性を考慮してアイロンとミシン操作を行う能力。 |

| 能力細目 | 職務遂行のための基準 |
|-------------|---|
| ①ミシン操作 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 丸縫いできる程度の技能を持ち、通常の作業においては複数のパーツの縫いに対応している。 ○ 分担する複数のパーツの縫いを、作業指示書通りに正確に行っている。 ○ 作業動作標準を十分に理解し、習熟している。 ○ ラインの他のメンバーの作業の進捗を見ながら、それを滞らせないよう気を配り、協調性をもって作業にあたっている。 ○ より迅速な作業を心がけ、ライン全体の作業能率を高めている。 ○ 中難度の縫いに対して技能習熟し、ポケット、前端縫等の工程について手早く、確実に作業を行っている。 ○ 素材特性を活かすことのできる技能を持ち、実際に取り扱う素材に対して的確な判断力をもって対応している。 ○ 規格寸法基準に対して、実際の寸法の良否の判断ができています。 ○ 専門用語を理解し、ミシンを用いて曲線、飾縫いを確実にしている。 |
| ②アイロン作業・手作業 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 丸縫いできる技能を持ち、通常の作業においては複数のパーツのアイロン作業に対応している。 ○ 分担する複数のパーツのアイロンかけを作業指示書通りに、正確に行っている。 ○ ラインの他のメンバーの作業の進捗を見ながら、それを滞らせないよう気を配り、協調性をもって作業にあたっている。 ○ より迅速な作業を心がけ、ライン全体の作業能率を高めている。 ○ 中難度のアイロン手作業技能に習熟し、くせ取りやシルエット表現をアイロンによって確実に行っている。 ○ 素材特性を活かすことのできる技能を持ち、実際に取り扱う素材に対して的確な判断力をもって対応している。 ○ 規格寸法基準に対して、実際の寸法の良否の判断ができています。 ○ 専門用語を理解し、中難度の型返しアイロンを標準時間でやっている。 |

●必要な知識

| | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 縫製手順に関する知識 <ul style="list-style-type: none"> ・各種デザイン及び材料による縫製の手順 ・各種材料に適合した縫製及び仕上げ方法 ・各種芯地の取扱い方法、縫製の手順 2. 婦人子供注文服の製作手順に関する知識 <ul style="list-style-type: none"> ・ブラウス、スカート、スラックス 3. 縫製方法に関する知識 <ul style="list-style-type: none"> ・ダーツ縫い ・脇入れ ・肩入れ ・裁ち合せ ・くせ処理 ・ダーツ処理 ・ポケット作り ・芯作り及び芯すえ ・見返し作り及び見返し付け ・背作り、前立て及び天狗作り ・腰裏付け ・小股及びしり縫い ・芯接着、ファスナー付け | <ol style="list-style-type: none"> 4. 工業用ミシンに関する知識 <ul style="list-style-type: none"> ・本縫いミシン ・特殊縫いミシン ・自動ミシン 5. 採寸に関する知識 <ul style="list-style-type: none"> ・採寸箇所及び採寸方法 ・体形の把握 ・採寸器具の種類及び取扱い方法・素材特性 ・縫製仕様の見方に関する知識 |
|---|--|

(図6) 能力評価基準の策定取組み状況

